

第2学年〇組 学級活動指導案

平成29年〇月〇日 (〇)

指導者 掘越 彩

1 議題「2-〇読書キャンペーンをしよう」

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は(略)。本学級では、年度当初に学級活動についてオリエンテーションを行い、学級会の意味や方法などについて共通理解を図った。学級会の経験がほとんどない子も多く、最近やっと形になってきたような状況である。話し合うことに慣れていないため、毎回教師が支援しながら学級会を行っている。1学期は、「クラスのマークを決めよう」「雨の日の合言葉を決めよう」などの議題で学級会を行ってきた。最初は教師が司会や記録等の役割を行っていたが、1学期の中頃からは児童が輪番制で司会グループを作り、学級会を進めている。「学級会が楽しい」「自分たちで決めたことを実行するのがうれしい」という児童が多いが、自分の意見を発表することに消極的な児童もいる。

(2) 議題選定の理由

本校では11月を読書月間としている。本学級には本が大好きな児童もいるが、あまり本を読まない児童や同じ種類の本ばかり読んでいる児童も多い。せっかくの読書月間なので、様々な種類の本があることを知り、たくさんの本を読もうという意識をもたせたいと考え、本議題を設定した。読書キャンペーンを行うことで、本が好きな子だけではなく、普段あまり本を読まない子や同じ種類の本ばかり読んでいる子も、たくさんの本と触れあうきっかけになればよいと考えた。

提案理由を広げずに「たくさん本を読めるように」だけでもよい。

3 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
読書キャンペーンについて関心をもち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	みんなが楽しくキャンペーンに参加できるよう、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学校生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

月日 (曜日)	活動の 場	活動の 主体	活動の内容	○指導上の留意点	目指す児童の姿と評 価方法
○月○日 (○)	20 分 休み	司会グ ループ	・議題案を検討・決定する。 「2-○読書キャンペーンをしよう」 ・学級会までの見通しをもつ。	○司会グループは輪番制とし、多くの役割を経験できるようにする。 ○学級みんなの議題になっているか、みんなで解決できる問題かを検討する。	【関心・意欲・態度】 ・よりよい学級生活づくりのために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。 (提案カード・観察)
○月○日 (○)	帰りの 会	全員	・議題を決定する。	○司会グループの提案をもとに、全員で決定する。	
○月○日 (○)	20 分 休み 昼休み	司会グ ループ 提案者	・活動計画(司会原稿)を作成する。 ・提案理由を確認する。 ・めあて、役割分担を決める。 ・学級会ノートを作成する。	○今まで行ってきた学級会をもとに、活動計画(司会原稿)を作成させる。 ○提案理由をもとに話合いのめあてを考えられるように助言する。	【知識・理解】 ・読書キャンペーンをするために話し合わなければならないことを理解している。 (活動計画)
○月○日 (○)	帰りの 会	全員	・司会グループが話し合うことをみんなに知らせ、学級会ノートを配る。 ・学級会ノートに自分の意見を書く。	○決まっていること(条件)を共通理解できるようにする。 ○話合いのめあてを確認し、自分の意見に生かせるようにする。 ○考えが書けない児童には、具体的な例を挙げて助言する。	【思考・判断・実践】 ・読書キャンペーンの目的に合った意見を考え、判断し、ノートに書くことができる。 (学級会ノート)
○月○日 (○)	20 分 休み 昼休み	司会グ ループ	・話合いの準備を行う。	○学級会に必要な掲示資料を用意する。	
○月○日 (○)	朝の会	全員	・教師の言葉が書かれた学級会ノートを受け取る。 ・学級会でつけるバッチを受け取り、学級会の座席を確認する。	○学級会ノートに励ましの言葉を記入し、学級会への意欲を高める。 ○安心して話合いに臨めるように細かいことも確認しておく。	

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

○様々な本に触れ、本をもっと読みたくなるようなキャンペーンの計画を考えることができるようにする。

(2) 児童の活動計画

だい14回キラキラなかよし学びゅう会 かつどうけいかく ○月 ○日(○) ○時間目		
ぎだい	2-○読書キャンペーンをしよう	
やくわり	しかい() ふくしかい() こくぼん()()() ノート()	
ていあんりゆう	1 1月は読書月間です。2-○でもたくさん本を読んでいる人はいますが、あまり本が すきでなかったり、ずかんばかり読んでいたりする人もいます。2-○読書キャンペー ンを行うことで、いろいろな本をして、たくさんの本を読めるとよいと思います。ク ラスのみんなでとりくめば、たのしい読書月間になると思ってていあんしました。	
はなし合いのめあて	みんなが楽しみながら、いろいろな本を知ったり、たくさんの本を読んだりすることが できるような、2-○読書キャンペーンを考えよう。	
きまっていること	・キャンペーン期間は、1 1月○日(○)～1 2月○日(○)の1週間。	
はなし合いのじゅんじょ		気をつけること
1 はじめのことば 2 クラスのうた 3 しかい、きろくのしょうかい 4 ぎだいのたしかめ 5 ていあんりゆうのせつめい 6 はなし合いのめあてのたしかめ 7 はなし合い ①なにをするか (20 分) ②やくわりぶんたん (10 分) 8 きまったことのはっぴょう 9 ふりかえり 10 先生のはなし 11 おわりのことば		○大きな声で言って、きちんとれいをする。 ○じぶんのめあても言う。 ○ていあんしゃがわかりやすくせつめいする。 ○みんなで言う。 ○ていあんりゆうとめあてを考えながらなにをするかをきめる。 ○1週間できちんとできるように、いけんをまとめていく。 ○①がきまったら、どんなやくわりがいるか考えてもらう。 ○ひつようなやくわりがきまったら、やりたいやくわりにマグネッ トをはってもらう。 ○ノートきろくが大きな声で言う。 ○大きな声で言って、きちんとれいをする。
(3) 教師の活動計画 話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 始めの言葉 2 クラスの歌 3 司会グループの 紹介 4 議題の確認 5 提案理由の説明 6 話合いのめあての	○それぞれめあてが言えるよう、事前に指導する。 ○提案者の思いを全員が理解し、話合いの指針となる ように事前に指導する。	

確認

7 話し合い
何をするか
(20 分)

- 提案理由を意識し、理由をつけて発表できるように助言する。
- 「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の順で話し合いを進められるよう助言する。

実際の授業では、「出し合う」は終わった状態で、出た意見を分類するところから行い、そのあとすぐに「比べ合う」に入る。

分類（カテゴリ分け）にかなり時間がかかるため、事前に司会グループにやらせておくのも一つの方法である。

- 「何をするか」についてはいくつ決定してもよいが、「1週間で自分たちでできること」という視点をもって話し合わせる。

「5冊読んだらメダル」「いろいろな先生たちにおすすめの本インタビュー」の2つの案が決定。

- 自治的活動の範囲を超えそうな場合は必要に応じて助言する。
- なかなか発言できない児童には個別に助言する。
- 自分の考えに固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いをつけることも必要であることについて助言する。

「本を作る」という意見にも賛成が集まっていたが、反対の子も多く、合意形成を図るのが難しかった。

反対していた子に「どうすれば賛成できるのか」を聞くことも考えられる。

具体物があると、子供たちがイメージをもてたかもしれない。「手作りの本」とはどのようなものなのか、実際に作らせておくとうい。

【思考・判断・実践】

・読書キャンペーンの目的に合った内容や役割について考え、発言している。

(観察)

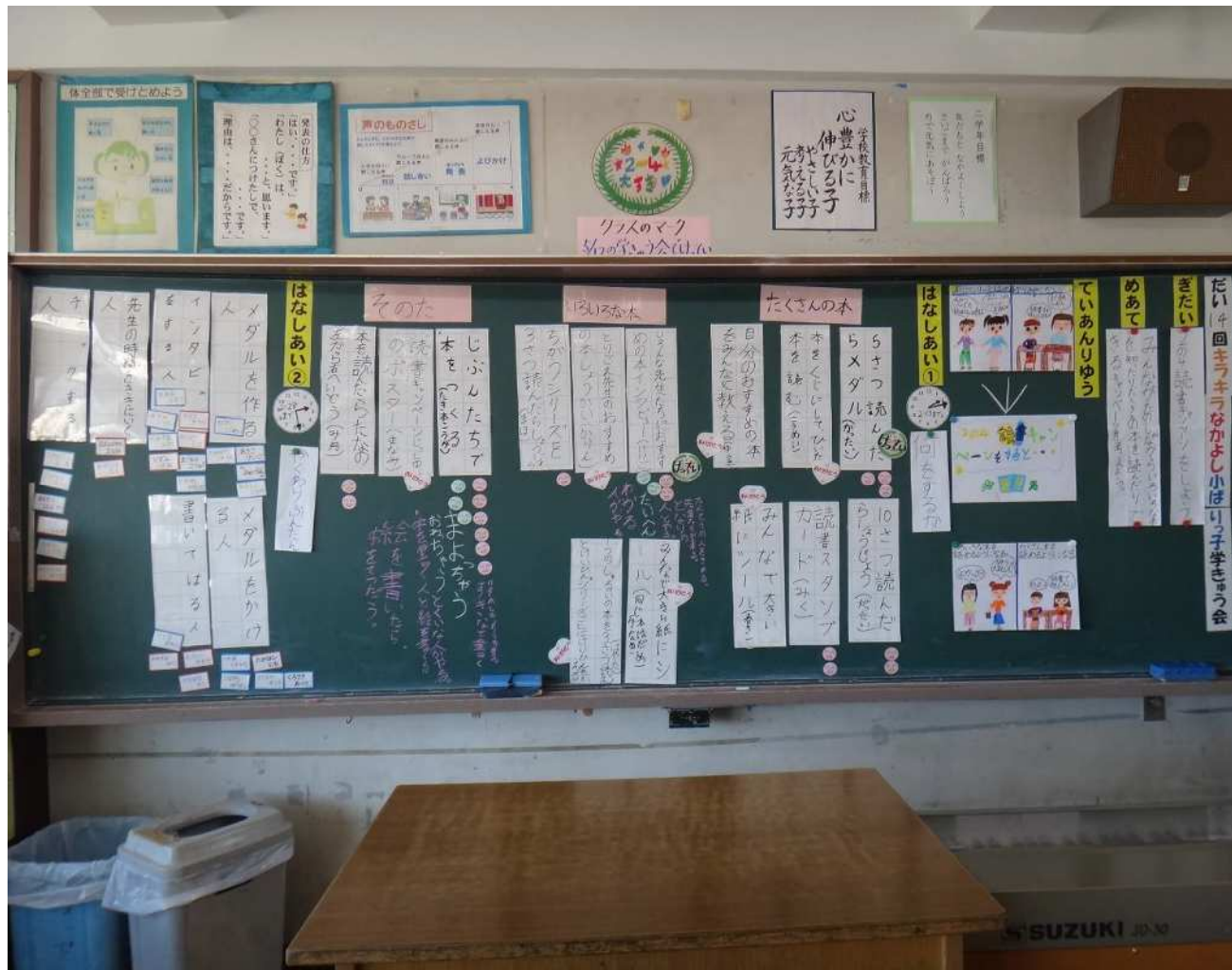
【知識・理解】

・話し合いの進め方や約束を理解している。

(観察)



役割分担 (10 分)	「メダルを作る人」「メダルをかける人」「チェックする人」「インタビューをする人」「インタビューの時間を聞きにいく人」「掲示物をつくる人」などの役割が出された。 <留意事項> ・役割分担に軽重がつかないようにする。 ・「男女の協力」という視点を考え、役割分担では男女の両方が入るようにする。
8 決まったことの発表 9 話合いの振り返り 10 先生の話 11 終わりの言葉	○今日の学級会について、自分や友達のよかったところを振り返ることができるよう助言する。 ○提案理由を意識した発言や、学級全体を考えた建設的な発言などを称賛するとともに、今後の課題を伝える。 ○司会グループでのねぎらいの言葉を掛けるとともに、実践への見通しをもたせ、事後の活動への意欲が高まるように言葉掛けをする。



6 事後の活動

[illegible]